

「神さまを一番にして生きる」

マタイによる福音書 6章25～34節

聖学院小学校教諭 相浦 智

「今日は、こどもの日です。」と言ったら、皆さんびっくりしますね。日本では、5月5日がこどもの日です。けれども、今、私達がお献げしている花の日礼拝は、もともと子どもの日の礼拝としてスタートしたものでした。

今から158年も前の1856年。アメリカのマサチューセッツ州の牧師が、教会に熱心に通ってくる子どもたちの姿に心打たれ、その美しい心と神さまを愛する気持ちを励ますための特別な礼拝を、6月の第二日曜日に献げました。そのあと、神さまが造ってくださったお花を礼拝堂に飾って礼拝するようになり、「シャロンのバラの日」と呼ばれるようになって今の「花の日礼拝」となりました。

先程、読んでいただいた聖書の箇所は、ガリラヤ湖のそばの丘の上で、イエスさまがなさった大変有名なお話です。イエスさまは、「私が一番になりたい！」「もっとよい生活がしたい！」「今日、どうやって生きていこう…」など、悩みをたくさん抱えた人々に、静かに語りかけました。自分や周りの人たちばかりに目が向いてしまっているその目を、「空の鳥」「野の花」へと向けなさい、と。自分や周りの人たちが気になり、比べてあれこれ考えて悩んでいる私達の目を、神さまが造られた小さなものに向けるようにおっしゃったのです。2月・3月のガリラヤ湖のあたりは、アネモネやけしなどの花が、なだらかな丘一面に咲き乱れ、空には様々な鳥たちが飛んでいます。この辺りに住む人々にとってあたりまえなその景色に、イエスさまは目を留められ、神さまの深い愛を感じ、こんなに美しい素晴らしい贈り物をくださる神さまをたたえ、その神さまを一番にしていきようと教えてくださいました。神さまを一番にするとき、その他のものは“おまけ”のように添えて与えられる事を、忘れないでいたいと思います。

花には、神さまが与えられた不思議な力があります。花束を受け取って嫌な気持ちになる人は、ほとんどいないでしょう。寂しい人や病気の人を元気づける事もできます。イライラした気持ちを優しくすることもできます。「世界一受けたい授業」というテレビ番組で、空き巣被害が多い町に或るものを作ったら泥棒が来なくなりましたが、そのあるものとは何でしょう？というクイズをやっていました。答えは「花壇」です。また、玄関先にお花が植えてある家は、泥棒が入りにくいというデータがあることや、自転車が盗まれてばかりの自転車置き場に花壇を作ったら、その後盗まれなくなった例もあると紹介されていました。花を見て、悪い事を考えていた人がそれを止めるって、すごいですよね。きっと、神さまに造られたそのままに、“ありのままに”咲いている花が、悪い心をさえ変える力を持っているのでしょう。

では、その花よりも素晴らしいものとして神さまが造ってくださった私たち人間は、どうでしょう。私たちの言葉や行いは、周りの人たちを優しい気持ちにしたり、嬉しい気持ちにしたりできているでしょう

か？悪い事は止めようと、人の思いを変えることができるでしょうか？…逆が多いような気がします。周りの人をイライラさせたり、けんかを売ってしまったたり、悲しい気持ちにさせてしまうことのほうが多いような気がします。

イエスさまのように、美しい花を見て、美しい贈り物を下さる神さまをたたえたいと思います。神さまを一番にしてありのままに生きよと教えてくださるイエスさまのように生きていきたいと思います。

2014年6月10日 聖学院小学校 花の日礼拝